

鳴門教大、宮城教大、上越教大、福岡教大 「いじめ防止支援シンポジウム」



鳴門教育大学長の講話
山下 鳴門教育大学長
の状況からオ
ンライン配信
による開催と
して、教育委
員会関係者、
教員養成大学

2月12日、BPPプロジェクト主催の「いじめ防止支援シンポジウム」が開催された。BPP(Bullying Prevention: いじめ防止支援)プロジェクトは、いじめ問題に関して特色ある取組を行っている鳴門教育大学・宮城教育大学・上越教育大学・福岡教育大学の4大学による協働参加型の組織・事業で、平成27年度の発足以降、取組の成果と課題を全国に発信するため、東京でシンポジウムを開催した。今年度はコロナ禍の影響からオンライン配信による開催として、教育委員会関係者、教員養成大学

関係者、PTA全国協議会関係者等約100名の参加があった。初めに、村松隆宮城教育大学長・林泰成上越教育大学長・飯田慎司福岡教育大学長の挨拶の後、各大学からこれまでの7年間の取組に係る事業報告を行った。続いて、国立教育政策研究所の浅田和伸所長、公益社団法人日本PTA全国協議会の清水敬介会長の来賓挨拶の後、デイスカッション「これからのいじめ防止に向けた取り組み」と題して、各大学事業実施担当教員による活発な意見交換をライブ配信した。その後、山下一夫鳴門教育大学長から、まとめとしてBPPプロジェクト事業立ち上げ以降の成果と課題の総括と、これからのいじめ防止支援の取組を推進する旨の講話があった。最後に、佐古秀一鳴門教育大学理事から、閉会挨拶としてBPPプロジェクト関係各機関が連携して取り組んできた意義に触れ、全ての関係者、参加者に向けて謝辞があった。

高知大フイリピン人修了生同窓会 設立記念行事をオンライン開催

昨年11月15日、高知大学フイリピン人修了生同窓会(PHILJAPKUS)の設立記念行事がオンラインで開催された。写真。同大は、2004年4月に博士課程の文理融合型独立大学院として「黒潮圏海洋科学研究所(現総合人間自然科学研究所黒潮圏総合科学専攻)」を設置し、学際性や国際性を重視した高等教育及び研究を通じた持続型社会の構築を担う人材育成の一環として、フイリピンをはじめとする黒潮流域にかかる国・地域との国際ネットワークを構築してきた。同窓会は、このネットワークを活用して教育・研究のさらなる推進を目指すため、黒潮圏海洋科学研究所並びに黒潮圏総合科学専攻の修了生によって設立されたものである。当日は、同大の岩崎貢三理事から歓迎の挨拶が行われ、フイリピンの大学関係者やフイリピン農業省漁業・水産資源局第2支部役員等から祝辞が述べられた。今回の記念行事にはフイリピンや台湾等から65名が参加しており、黒潮圏総合科学専攻の修了生から黒潮流域圏における研究成果の発表を通じて活発な意見交換が行われた。同窓会は今後、社会経済、農業、



関係者、PTA全国協議会関係者等約100名の参加があった。初めに、村松隆宮城教育大学長・林泰成上越教育大学長・飯田慎司福岡教育大学長の挨拶の後、各大学からこれまでの7年間の取組に係る事業報告を行った。続いて、国立教育政策研究所の浅田和伸所長、公益社団法人日本PTA全国協議会の清水敬介会長の来賓挨拶の後、デイスカッション「これからのいじめ防止に向けた取り組み」と題して、各大学事業実施担当教員による活発な意見交換をライブ配信した。その後、山下一夫鳴門教育大学長から、まとめとしてBPPプロジェクト事業立ち上げ以降の成果と課題の総括と、これからのいじめ防止支援の取組を推進する旨の講話があった。最後に、佐古秀一鳴門教育大学理事から、閉会挨拶としてBPPプロジェクト関係各機関が連携して取り組んできた意義に触れ、全ての関係者、参加者に向けて謝辞があった。

高知大学

黒潮圏科学国際シンポジウム

昨年11月13日・14日、高知大学大学院総合人間自然科学研究所黒潮圏総合科学専攻主催の第14回黒潮圏科学国際シンポジウムが、オンラインで開催された。シンポジウムは、フイリピン及び台湾を中心に、文化や気候等を共有する東南アジア諸国のフイールド系自然科学研究者や社会科学研究者との学術交流を推進することを目的として、2007年から毎年開催されているものである。

今回のシンポジウムでは、同大の受田浩三理事から開会の挨拶が行われた後、海洋コア総合研究センターの佐野有司センター長から海洋生物が生成する貝殻や甲殻類の甲羅などの硬組織の分析に関する基調講演が行われた。続いて行われたテーマセッションと口頭発表では、世界二大海流の一つである黒潮を通じた陸域を含めた沿岸域の総合的管理等について、活発な意見交換が行われた。特に同大の第3期中期目標期間の重点事項である特別プロジェクト「4次元統合黒潮圏資源学」の創成」と、同大が分野横断的かつ重点的に進めている研究拠点プロジェクトの一つである「黒潮圏科学に基づく総合的海洋管理の体系化」の発表には多数の参加があり、関心の高さがうかがえた。2日間に渡って開催されたシンポジウムには6ヶ国63機関・大学から総勢287名が参加し、盛況のうち閉会した。